

鯉のぼり作り

梅雨の時期になると戸外での活動が限定されることもあり、この時期に鯉のぼりの共同制作をします。市内の錦鯉を飼っているお寺（臨済宗妙心寺派禅宗寺）さんや大崎市岩出山有備館（史跡伊達藩学問所）に伺い池の鯉を見学してもらい、鯉の形や顔、体、ひれ等よくよく見ないと作成できません。見学を終えた後にお父さんたちが奉仕作業で設置してくれたプールで養殖の鯉を3匹放ち、ひがし保育園の年長さんと合同で鯉つかみを行いました。鯉をよく見ないと捕まえることが来ません、実際に触れてみて鯉の触感を感じ、生きてることを実感しました。もくもくと捕まえる子、わあ、きやー騒ぎながら捕まえる子、全員が捕まえることができ一安心。プールの周りでは小さいクラスから年中年少大人たちも全員で大応援。鯉つかみを終わるとホールに場所を移して厨房含め職員皆で鯉を捌くのを見学しました。子どもたちは「かわいそう」「血が出る」等々友だちや大人と会話しています。鯉のうろこや内臓、切り身になった姿を見ると「スーパーで見たことある」「マグロみたい」「おいしそう」と子どもたちの感想が出てきます。厨房の職員がその場で切り身に衣をつけ油に入れると音とともに唐揚げの匂いがしてきました。おいしそうな匂い、早く食べたい等々、子どもたちの食欲が掻き立ち、給食で美味しく頂きました。後日、年長が全員で話し合いをして形、色を決めて下書きが始まり、色塗りまで丁寧に行い、3週間余りで完成しました。集中して色を塗る経験は、最後までやりきる経験として出来上がった喜びを増幅してくれます。やってできないことなんかない、やればできる。子どもたちの自己肯定感が少しでも育つことを願いながら大人たちは、見守り接しています。



乗馬体験

卒園式前、年長の子どもたちの楽しみである乗馬体験があります。この年も東松島市に所在する美馬森 八丸牧場さんにお世話になりました。石巻圏（石巻、東松島、女川）では、唯一我々の施設だけだそうです。馬にエサやりをしながら徐々に慣れていき、最後に馬に乗せてもらいました。馬に乗る際に手の甲をかざし馬の鼻に匂いをかがせます。自分はこういう者ですと挨拶をし、これがうまくできないと馬は乗せてはくれません。人間も動物、1人よがりの者は信用されません。子どもたちにとって良い学びとなりました。

輝宝福祉社会「歩み」Vol.17

2025年春

令和7年度、ひがし保育園同様今年度からたから保育園からたからこども園として再スタートしました。春に保護者総会を行い10年間保護者会費を1か月600円で運用してきましたが、物価の高騰により難しくなり800円に上げるようになりました。財政的には1,000円にした方が良いのですが、今年度はフリーマーケットや夏祭りの出店の品物単価を上げることで会を運営し、年度末に役員が集まり、再度会費の検討を行うこととなりました。

子どもたちは相変わらず、近隣に出かけ、田んぼまで歩いては、カエルやオタマジャクシ、ザリガニ等々捕まえ、お世話をする日を送っています。また、近くの県立自然公園旭山で散策やカナヘビ等探したり、木登りを楽しんでいます。また、石巻市渡波の黒須美容室さんでつるし雛を見学させてもらいました。1針1針手縫いした人形は素敵で子どもたちの心の栄養になったようでした。

0歳児	かに組	3名
1歳児	かめ組	6名
2歳児	らっこ組	12名
3歳児	ぺんぎん組	12名
4歳児	いるか組	11名
5歳児	くじら組	11名
		計55名



後記

今、全国的に子どもの数が減っています。石巻市では、8年前まで1000人以上の赤ちゃんが生まれていましたが、昨年度は601人まで下がりました。小学校は郡部が閉校休校になり、公立高校も数が減っています。幼児施設は、新しい施設が作られており、行政の施策に疑問が生じます。メディア時代の今、人間の育ちは50年前100年前と変わっていません。心身ともに健全な子どもを育てることが大切と信じ子どもたちと関わっていきたいと思います。

社会福祉法人 輝宝福祉社会 石巻たからこども園

令和7年6月17日発行

〒986-0861 宮城県石巻市蛇田字沖13番

Tel: 0225-90-4990 Fax: 0225-90-4991

《郵便振替》 加入者名: 社会福祉法人 輝宝福祉社会 口座記号番号: 02290-8-112620

支援サイト 検索 → 『石巻たからこども園』

E-mail: takara@kihofukushikai.com